多様性と公正性を包摂する教育·研究·就労環境の実現のために

東北大学

Newsletter

TOHOKU UNIVERSITY Diversity, Equity & Inclusion NEWS

ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン推進センター 東北大学

東北大学DEI推進センター

Vol.7
2026 Oct

「DEI」とは、「Diversity（多様性）」「Equity & Inclusion（公平性と包括性）」からなる頭字語（アクロニム）。東北大学が“紡ぐ”男女共同参画の取組が、ムーブメントとして拡がっていくことを目指しています。

Headline News

澤柳フェローランチミーティング ～冨永悌二総長との懇談会～開催



冨永総長と女性研究者たち



冨永総長との交流の様子



澤柳フェローの先生方と参加者の皆さん

6月25日に、第3回目となる澤柳フェローランチミーティングが、冨永総長を迎えて盛大に行われました。一昨年・昨年に引き続き対面で開催され、本学執行部の女性役員に加え、15名の澤柳フェローも参加して若手の女性研究者たちと交流を深めました。

田中 真美副学長（DEI推進センター長）の開会の挨拶に続き、冨永悌二総長からは今年度もユーモアに溢れるコメントと共に、卓越研究大学としての女性研究者の活躍への熱い期待と、大学としての支援の継続をお約束いただきました。次に、紫蘭会（東北大学の女子校友会）の奥山 恵美子会長より祝辞を賜り、集合写真の撮影の後、秋山 正幸副理事（DEI推進センター副センター長）の乾杯の音頭で、食事と歓談を始めました。

ランチミーティングの後半では、今年度より新しくなったTUMUG両立支援のベビーシッター割引券コースを利用している工学研究科の齊藤 拓実先生から制度利用の感想をお話しいただきました。また、今年度から澤柳フェローになられた文学研究科の内藤 真帆先生、工学研究科の溝尻 瑞枝先生、情報科学研究科の太田 香先生、生命科学研究科の奥村 美紗子先生の4名からも、それぞれ一言ずつ抱負を述べていただきました。

ランチミーティングの終わりには、佐々木 成江DEI推進センター副センター長より閉会のあいさつとして、学内の女性研究者がお互いに知り合い、助け合う重要性が述べられました。

当日は、多様な分野と出身地から73名（関係者を含む）の研究者が参加し、ネットワーキングを楽しみました。DEI推進センターは、今後も様々な背景と状況にある構成員たちが、互いにその多様性を認めつつ、なおかつ公正で包摂的な大学の一員として個々人の能力を発揮できるようサポートしていきたいと思います。

開　催　日：2026年6月25日（木）12:00-13:00
会　　場：エクステンション教育研究棟1階ホール（片平キャンパス）
対　　象：本学女性研究者（教授、准教授、講師、助教、助手、ポスドク（教育研究支援者など））、およびDEIに関心を持つ教職員・大学院生
参加人数：73名（関係者含む）

澤柳フェロー一覧はこちらから

お知らせ

DEI推進センターに 西野 麗華特任助教（運営）が着任しました

■西野 麗華助教（運営）のコメント



本年度より特任助教（運営）として着任いたしました、西野 麗華と申します。専攻は公共政策で、ジェンダー論やデータサイエンスも学んできました。これまでは、NPO法人における理系分野のジェンダーギャップ解消の取り組みや、国政・地方の議員インターンシップ経験などを通じて、様々な社会課題と向き合ってまいりました。地元である仙台、そして東京やウィーンでの留学経験と、これまで培った知識を活かし、東北大学のDEI推進に向けて尽力してまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

次世代育成

報 告

2025年度TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラム

TU-UW Academic Open Space（AOS）は、東北大学（TU）とアメリカのワシントン大学（UW）が共同で教育と研究を促進するためのプログラムです。TUからUWへと学生派遣事業として、人文社会科学分野では、Ganchimeg Namuunbayarさん（情報科学研究科）、自然科学分野では、朝雛 えみりさん（工学研究科）が採択され、研究に役立つDEIに関する知識、経験を得るために米国ワシントン州に派遣されました。

開かれた姿勢が多様性を生み、多様性が刺激的な議論と情熱を生む。

はじめまして。情報科学研究科修士2 年生のガンチメグ・ナムーンバヤルと申します。モンゴル出身の私は、2019年に来日し、様々な国籍の学生が集まる日本語学校を経て、留学生率が0.5%に満たない高等専門学校を卒業し、東北大学工学部に唯一の女子学生かつ唯一の留学生として編入しました。現在は、発達期の甲状腺ホルモンかく乱が脳に及ぼす影響を、遺伝子発現やDNAメチル化などの観点から解析する研究に取り組んでいます。

今回TU-UW AOS プログラムへの参加を決めた理由は二つあります。欧米トップ研究環境の基準を直接肌で感じ、修士論文の質を引き上げること、そして多様なメンターとの対話を通じて将来のキャリアの可能性を広げることでした。eScience Institute のSarah Stone 先生との対話は、その第一歩でした。異分野の研究者とResearch Software Engineering（RSE）をつなぐ同研究所の姿勢に感銘を受けました。急速に発展するAI時代こそ、"What can you do?" よりも "What can you bring together?" を問い続ける環境が、世界トップの研究を支えていると実感しました。先生との縁を大切に、東北大学との共同研究に可能性を感じています。

続いて、病理検査医学部のXinxian Deng先生と面談する機会をいただきました。中国からアメリカへ渡るキャリアパスが私と重なり、まさにロールモデルのような存在でした。語り合う中で先生がおっしゃった言葉が今も残っています。「政治的にも経済的にも不安定な状況でも、できることをやり続けるしかない」と、異国で自分の場所を切り開いてきた先生のその言葉は、私の背筋をただし、前を向き続ける勇気を与えてくれました。

また、現地でお世話になった佐々木 富和先生、三戸 芳子先生に心から感謝しています。日本で同郷の方と会うと心が温まるように、異国で日本人の先生方に支えていただいたことが、挑戦を続ける土台になりました。この3泊4日で受けた刺激を起点に、東北大学が世界で輝く研究拠点となるよう、身近なところから貢献していきたいと思います。

このような貴重な機会を与えてくださった皆様、サポートしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。また、見知らぬ学生からのメールに丁寧に応じてくださった現地の先生方のご厚意なくして、この経験は実現しませんでした。





Ganchimeg Namuunbayarさん
（情報科学研究科）

渡航期間 2026年 3月10日～3月13日

2025年同プログラムでUWに派遣された朝雛 えみりさん（工学研究科）の渡航報告は、次回のNewsletter Vol.8にて掲載を予定しております。

次世代育成

お茶大・東大・東北大での三大学連携授業 「ジェンダード・イノベーション入門」を今年度も開催します

DEI推進センターは、全学教育授業として「ジェンダー共創社会」「インクルージョン社会」に加え、2023年度後期よりお茶の水女子大学・東京大学との三大学連携授業「ジェンダード・イノベーション入門」を運営しています。今年度も2単位が取得できる全学の集中講義として、2月3～5日・9日に開講します。授業は、理系・文系を横断する8つの座学と7回のグループワークを、オンラインで実施します。ジェンダード・イノベーション（GI）に関連する学術の最新の知見を学べると同時に、東大やお茶大の学生さんとグループ討論ができる貴重な機会となります。

■三大学の教員によるリレー講義

❶お茶の水女子大学：GI
「ジェンダード・イノベーション」
石井 クンツ 昌子先生

❷お茶の水女子大学：科学史
「科学史研究からGIへ」
小川 眞里子先生（三重大学名誉教授）

❸東北大学：分子細胞生物学
「生命科学におけるGI」
佐々木 成江先生

❹東京大学：性差医学
「健康とウェルビーイングから考えるGI」
孫 輔卿先生

❺東京大学：無知学
「無知学の視点から見たGI」
隠岐 さや香先生

❻東北大学：医工学
「触覚・触感とGI」
田中 真美先生

❼お茶の水女子大学：情報工学
「AIのバイアス～情報可視化を用いた分析と観察～」
伊藤 貴之先生

❽お茶の水女子大学：工学・都市建築デザイン学
「都市・建築デザインとGI」
藤山 真美子先生

※内容の変更が生じる可能性があります



『ジェンダード・イノベーション入門』（東京大学出版会）

東京大学出版会より授業成果をまとめた書籍『ジェンダード・イノベーション入門』が刊行され、冨永総長はじめ三大学学長メッセージや東北大学・DEI推進センター教員の寄稿が掲載されています。また、2027年1月18日（月）には出版記念シンポジウムが開催されます。
（主催：お茶の水女子大学ジェンダード・イノベーション研究所、参加無料）

詳しい内容はこちらから

女性リーダー育成

2025年度 第9回
東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」受賞者4名のコラム

東北大学優秀女性研究者賞「紫千代萩賞」を受賞した4名の先生をご紹介します。自身の研究内容や今後の研究の展望などを紹介することで、分野を越えた女性研究者のネットワーク拡大の契機となることを目指しています。

※役職・所属等は2026年3月時点のもの

詳細はこちらから閲覧可能です。



人文・社会科学分野

松平 泉

学際科学フロンティア研究所
助教

業績名「その人らしい人格の形成における世代間伝達の役割の研究」

研究内容

親子が似ている、親も子もうつ病を発症する、など、考え方や行動の特徴が連鎖するかのように親子間で観察されることを「世代間伝達」と言います。我々は世代間伝達の機序に迫るべく、父・母・子からなる親子トリオを研究対象とした“Transmit Radiant Individuality to Offspring (TRIO) study”を独自に開始しました。TRIO studyは、父・母・子の3名全員から脳画像・遺伝情報・生育環境情報等を取得する、全く新しい研究基盤です。このデータから、親子の脳の構造的特徴が類似することや、親の幼少期の虐待被害経験と子の脳発達の関連など、世代間伝達に関する新たな知見を一つ一つ解き明かし始めています。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

生きる支えになりそうなメッセージは難しいので、最近大事だと感じたことを2点強調します。このコラムを最後まで読む方にとっては当たり前のことかもしれませんが…。まず、話してみたいと思う人がいたら、できるだけお話ししましょう。自分から動き出さないとやはり誰にも見つけてもらえないものです。見つけてもらえると、少しずつですが新しい機会に繋がる場合があります。もう一点、これは私自身が修行中の事項ですが、メールは早く返しましょう。私より遥かに忙しい先生が、私より遥かに速く、しかも理路整然とした返信をくださると、とても情けない気持ちになります。同時に、その先生がとても輝いて見えます。そのような人間になりたいものです。



理学・工学分野

鈴木 杏奈

流体科学研究所
准教授

業績名「持続的な地熱資源利用と地域共創のデザインに関する研究」

研究内容

地下に広がる岩の割れ目の中を熱水がどう動くかを理解し、地熱発電や温泉管理に役立てる研究をしています。地下の構造は直接見ることができません。その「わからなさ」を消すのではなく、「わからなさ」を明示しながら設計する方法を考えてきました。具体的には、複雑な構造の本質的な特徴をトポロジカルデータ解析で抽出し、その情報をもとに流動の予測と意思決定を行う理論を構築しています。3Dプリンタ製の岩石実験や、実際の地熱フィールドのデータを使った検証も行っており、理論と現場をつなぐことを大切にしています。近年は、多様なステークホルダーが地熱資源の利用の未来を一緒に考えるための対話設計にも取り組んでいます。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

博士課程の頃、地熱の数理モデルを研究していましたが、数学が十分にわかっているとは言えませんでした。それでも、自分の研究なのだから自分が一番わかっていないといけないと肩肘張っていました。ポスドクで東大の数理科学研究科に移ったとき、「この人たちより理解できるわけがない」と開き直って、わからないことを正直に相談しました。すごく楽になって、そこから新しい研究に発展しました。わからないと言っていいんです。わかっているふりをしている間は、助けてもらう隙がない。わからないと言えることによって、人が手を差し伸べてくれて、自分一人では行けなかった場所に連れて行ってもらえます。わからないを認め、周りを巻き込んでいきましょう。そしてその先の新たなワクワクを感じましょう！



農学・生命科学分野

久我 奈穂子

学際科学フロンティア研究所/
薬学研究科 兼任 助教

業績名「脳と末梢臓器の相互作用を支える神経基盤の研究」

研究内容

情動や記憶などの脳の働きは、近年、脳の活動だけでは説明できず、身体（末梢臓器）の状態にも影響を受けることが明らかになりつつあります。しかし、脳と身体がどのように相互作用して情動や記憶に影響するのか、その仕組みはほとんど分かっていませんでした。私は、自由に動いている動物から、脳と身体（心拍・腸の蠕動運動・血糖値など）の活動を同時に測定・操作できる新しい技術を開発しました。そして、身体の状態が情動や記憶に関わる脳の活動と連動していること、この連動が精神的ストレスによって乱れ、精神疾患の発症の一因になる可能性があることを示してきました。こうした結果は、身体の状態を考慮した、精神疾患の新しい診断・治療法の開発につながると期待されます。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

私のこれまでの研究人生を振り返ると、そのときは一見意味のないように思えたことが、後々何らかの形で返ってきたり、点と点がつながって大きな意味を持ったりすることが多かったように思います。コスパやタイパが重視される時代ではありますが、あまり目先の損得にとらわれず、自分なりの意義を見出して、全力で楽しんで取り組んでみるのも悪くないと思っています。研究テーマにしても、人との縁にしても、そのめぐり逢いにはきっと意味があり、それが今・これからの自分を支えてくれるはずです。今日の一歩一歩を大切に、進んでいってください。



医歯薬学・保健分野

宇井 彩子

加齢医学研究所
准教授

業績名「ゲノム安定性におけるクロマチン構造制御と発がん機構の研究」

研究内容

私の研究テーマは、生命の設計図であるゲノムの安定性を支える分子機構の解明と、その破綻が引き起こすがんや老化の仕組みを理解することです。これまで、DNAが細胞内でクロマチンと呼ばれる構造を形成している点に着目し、クロマチンの動的制御、特にクロマチンリモデリングがゲノム安定性の維持にどのように関与しているのかを研究してきました。その結果、クロマチン構造を制御する因子がゲノムの安定性を保つうえで重要な役割を担っていることを明らかにしてきました。現在は、これらの基礎研究の知見を基盤として、がんや老化におけるゲノム不安定性の分子機構の理解を進めるとともに、将来的には新たな治療戦略の創出につながる研究へと発展させることを目指しています。

後輩たちに向けたアドバイスやメッセージ

研究の道は決して一直線ではなく、時には思い通りに進まないことも多いと思います。しかし、そのような時こそ焦らず、目の前の問いに丁寧に向き合うことが大切だと思います。また、研究は一人で進めるものではなく、多くの人との出会いや協力の中で発展していくものです。恩師や研究仲間、共同研究者など、周囲の方々とのつながりを大切にしてほしいと思います。そして、自分が「面白い」と感じる研究テーマを大切にし、好奇心を持ち続けてほしいと思います。小さな一歩でも歩み続けていけば、必ず新しい発見につながるはずです。

女性リーダー育成

図書館展示

8月21日は「女子大生の日」
日本初の女子大生を知る、読む、深める

東北大学附属図書館の協力のもと、記念展示と「女子大生の日」を記念して誕生したサイエンス・アンバサダーのマスコットキャラクター「たまか」のオリジナルグッズを配布しました。

開催会場　東北大学附属図書館本館メインフロア図書展示コーナー・北青葉山分館・工学分館・農学分館





2026年度
サイエンス・アンバサダー（SA）紹介と活動報告

2026年度
SA活動報告は
こちらから

5/27（水） 2026年度 東北大学サイエンス・アンバサダー オリエンテーション



2026年度に任命された東北大学サイエンス・アンバサダー（全54名（ボランティア3名含む））を対象に、オリエンテーションを実施しました。
オリエンテーション後には、SAの皆さんと教員やスタッフとの交流会が執り行われ、活発な情報交換が行われました。意欲溢れるSAの皆さんと大変有意義で楽しい時間を過ごしました。

会 場　金属材料研究所2号館1階講堂

7/29（水）7/30（木） オープンキャンパス 女子中高生のための大学進学やキャリア選択に役立つ講演会＆交流会



2026年7月29日・30日に東北大学オープンキャンパス2026が対面開催され、サイエンス・アンバサダー主導で「女子中高生のための大学進学やキャリア選択に役立つ講演会＆交流会」を実施しました。二日間で600名を超える参加があり、講演会では副学長・田中 真美教授によるDEI推進の紹介、理学部・工学部OGによるキャリア講演、アンバサダーの研究紹介が行われました。第2部ではサイエンス・アンバサダーと学部生が各学部・研究科の紹介や進路相談を担当し、参加者が大学での学びへの理解を深める機会となりました。

会 場　東北大学理学研究科合同C棟多目的室（2階）

8/7（金） UPWARDSサマープログラム2026最終日 交差性デザインカード」を用いたDEIワークショップを実施しました



「UPWARDS サマープログラム2026」の最終日である8月7日（金）、DEIワークショップが開催されました。当センターからは佐々木 成江副センター長、鶴田 想人特任助教、西野 麗華特任助教に加え、SA3名が参加し、日本およびアメリカの大学に在籍する学生10名とともに、「交差性（インターセクショナリティ）」の視点を取り入れた研究開発について議論を深めました。交差性とは、性別、人種、年齢、障がい、社会経済的地位など、複数の属性が複雑に重なり合うことで生じる不平等や課題を多角的に分析・解決するためのアプローチです。
ワークショップ冒頭では、佐々木副センター長より交差性の概念や、交差性の見過ごしにより製品開発において生じた具体的な問題やその解決事例が紹介されました。基礎的な知見を深めた後、「交差性デザインカード」を活用したグループワークを行い、互いの国の現状を共有したほか、性別（セックス／ジェンダー）の違いや 交差性を構成するさまざまな属性を確認し、普段意識する機会の少ない交差性について理解を深めました。
ワークショップの後編では、生成AIを活用しながら、参加学生の専攻領域である「半導体」に関して交差性を考慮すべき事例を共有し合いました。衛星緊急通報・通信システムをはじめ、レアアース採掘時の課題、スマートウォッチのセンサー機能など、多角的な視点から活発な意見交換が行われました。

会 場　片平北門会館2階エスパス　参加人数　合計16名（UPWARDS サマープログラム参加学生10人、サイエンス・アンバサダー3人、講師3人）

8/18（火） 科学イベント「楽しい理科のはなし2026」



河北新報社、東京エレクトロン宮城の主催による「楽しい理科のはなし2026」が開催され、サイエンス・アンバサダーが出展しました。今回は、「ぴかぴか！！LEDカードづくり」「キラキラ☆偏光万華鏡」の2つの実験を実施しました。当日は、約600名の子供達が参加し、科学のふしぎを体験しました。

会 場　東京エレクトロンホール宮城

東北大学「ぶる～みん」の皆さんが、オープンキャンパス・科学イベントの準備をサポート



「ぶる～みん（事務サポートチーム）」の皆さんに、オープンキャンパスや科学イベントで配布するパンフレットの準備や実験備品の加工など、多岐にわたる作業をご支援いただきました。資料の封入・配布物の整理などの細やかな作業を丁寧に進めてくださり、当日の運営が滞りなく進むよう支援いただきました。

「ぶる～みん」とは

【東北大学DEI部局ニュース 第1弾】理学研究科 ―理学研究科の新たな取り組み―

理学研究科では、一昨年度に開催した「女子大学生誕生111周年記念展示」（於北青葉山分館イベントスペース）に続き、昨年度からはシリーズ化した講演会を開催しています。また、理学研究科キャンパス内にダイバーシティーに関する常設展示を設置する方向で現在準備を進めています。

●第2回ダイバーシティー講演会の開催

昨年度は、日本初の女子大学生3名が現東北大学理学部で誕生したことをテーマにした「第1回ダイバーシティー講演会」を、東北大学史料館の加藤 諭先生を講師に招いて開催し大変ご好評をいただきました。今年度は、理学研究科男女共同参画推進委員会メンバーである物理学専攻の佐久間 由香先生に登壇いただき、「第2回ダイバーシティー講演会」を12月14日（月）に開催いたします。研究・仕事におけるキャリア構築と生活（プライベート）の両立の工夫や、学生・若手研究者に向けたメッセージをお話しいただく予定です。



▲第1回ダイバーシティー講演会

●合同C棟でのダイバーシティー常設展示

地下鉄「青葉山」駅から理学部への入り口に建つ、理学研究科合同C棟２階青葉サイエンスホールのロビーラウンジに、常設のパネル展示を計画中です。理学部・理学研究科に過去または現在所属する学生や教職員のメッセージを展示します。



女子大学生誕生▶
111周年記念展示
チラシ

●Webページの活用と女子学生交流会の開催

環境改善に向けた目安箱や女性休憩室案内、各種支援策をまとめたポータルサイトを開設予定であるほか、来春4月には新入生向けの女子学生交流会の開催を目指しています。

顕彰制度

第13回「澤柳記念DEI賞」授賞式・受賞講演会

日　時　2026年10月1日（木）授賞式・受賞講演会/14:00～　開催方法　ハイブリッド開催（オンライン：Zoom　会場：片平北門会館2階エスパス）





田中 香津生氏



中野 円佳氏

第13回澤柳記念DEI賞の授賞式・受賞講演が10月1日に開催されました。澤柳記念DEI賞を受賞した加速キッチン合同会社 代表の田中 香津生氏より「視覚障害者・女子中高生に素粒子探究の門戸を開く活動」の講演をいただき、続いて澤柳記念DEI奨励賞・中野 円佳氏（東京大学多様性包摂共創センター准教授）より「当事者の声からはじめる大学のDEI」というタイトルでご自身の編著『日本で女性研究者が増えない理由』の内容と研究活動の講演がありました。対面・オンライン合わせて73名が参加しました。講演後には、受賞者と関係者との交流会を行いました。

※役職・所属等は2026年9月時点のものです。

◎澤柳記念DEI賞／加速キッチン合同会社

課題名　「視覚障害者・女子中高生に素粒子探究の門戸を開く活動」

◎澤柳記念DEI奨励賞／中野 円佳氏（東京大学多様性包摂共創センター 准教授）

課題名　「編著『日本で女性研究者が増えない理由』の刊行及び東京大学IncluDEでの貢献」

両立支援

2026年度TUMUG支援事業 「ベビーシッターおよび一時託児利用補助」の新制度説明会

日　時　2026年4月22日（水）12:00～13:00（オンライン開催）　参加人数　40名（関係者含む）

新制度説明会
動画は
こちらから

※東北大学発行の個人メールアカウントでアクセスしてください。

女性リーダー育成

TUMUG オンラインランチミーティング 第43回

日　時　2026年5月21日（木）12:00～13:00　参加人数　27名（関係者含む）

開催報告の
詳細は
こちらから



■「2025年 TU-UW AOS DEI関連学生交換プログラム」成果報告

朝雛 えみりさん（工学研究科）／Ganchimeg Namuunbayarさん（情報科学研究科）

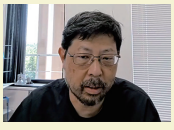
■2026年度新任教員（教授職）自己紹介・研究紹介

深川 美里教授（理学研究科）／太田 香教授（情報科学研究科）／牧浦 理恵教授（工学研究科）

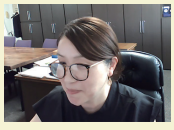
次世代育成

報 告

2026年度 第1回・第2回TUMUG Café online科研費セミナー



中谷 友樹教授



伊賀 由佳教授

第1回（生物・理工系）：8月5日（水）

第2回（人文・社会科学系）：8月6日（木）

対　　象：女性研究者　開催方法：オンライン（Zoom）

参加人数：第1回25名、第2回14名（関係者含む）

開催報告の
詳細は
こちらから

東北大学DEIシンポジウム

「次世代を担う女子中高生のSTEM進学支援の最前線 ～日仏のベストプラクティスとサイエンス・アンバサダー20年の軌跡と未来～」

詳細・お申込みはこちらから

日 時　2026年12月18日(金)14:00～17:15　開催方法　ハイブリッド開催(オンライン:Zoomウェビナー　会場:東北大学百周年記念会館 川内萩ホール2階会議室)

科学技術の発展とイノベーションには、多様な知の結集が不可欠である。一方、STEM 分野における女性人材の不足、とりわけ日本のジェンダーギャップは依然として大きな課題である。東北大学では DEI を重要課題に掲げ、多様な取り組みを推進してきた。
本年は、女子大学院生が次世代の STEM 進学を後押しする「サイエンス・アンバサダー」制度が創設 20 周年を迎える。
本シンポジウムでは、女子中高生の STEM 分野への進学支援をテーマに、国内外の先進的な取り組みを共有する。基調講演には、フランスで女子中高生向け科学イベントを牽引してきた Audrey Mazur-Palandre 博士と、「Girls Meet STEM」等を展開する山田 進太郎D&I財団COOの石倉 秀明氏を迎える。さらに、現役サイエンス・アンバサダーによる 20 周年記念パネルセッションを開催。国内外の知見と次世代を担う当事者の声を交え、STEM 分野の未来に向けたメッセージを発信する。

基調講演



フランス国立科学研究センター(CNRS)平等推進責任者
ICAR研究所「平等・多様性・包摂性(EDI)グループ」責任者
Audrey Mazur-Palandre氏



公益財団法人山田進太郎D&I財団常務理事COO
石倉 秀明氏

講演



東北大学副学長(ダイバーシティ担当)
DEI 推進センター センター長
田中 真美



東北大学経済学研究科 講師／DEI推進センター運営員
矢ケ崎 将之

サイエンス・アンバサダー20周年企画
記念動画上映およびパネルディスカッション

「SA20周年を迎えて―次世代を切り拓く私たちの未来像」

両立支援

2026年度TUMUG支援事業 ベビーシッターおよび一時託児利用補助

事前申請・詳細はこちらから

◎ベビーシッター・一時託児の利用料、補助が受けられます！

育児と仕事・研究の両立を応援するため、本学ではベビーシッターや一時託児を利用した際の利用料補助制度を実施しています。まだご存じない方・使ったことがない方も、ぜひこの機会にご検討ください。

コース	対象者(例)	補助内容
Ⅰ.割引券コース (国の制度＋本学負担)	文科省共済組合員で、同居する 0歳～小3の子を養育している方	割引券で利用料を割引 (1枚2,300円割引 等)
Ⅱ.TUMUGコース (本学独自制度)	大学院生(DC)など、割引券コースが 使えない事情がある方	1日4,600円まで 事後補助(要審査)

※ どちらか一方のみ、1日単位で利用可能です(同日併用不可)。

DEI 環境整備

10月21日(水)より再開

誰もがあんしんして交流する「DEI Lounge」

DEI Loungeは、ジェンダー、セクシュアリティ、障がい、人種や民族などあらゆるバリアを乗り越え、お互いが尊重しあう社会の実現に向けて学び、理解を深める場です。DEIに関心を持つ学生・教職員は誰もが利用でき、参加することができます。ワークショップや上映会などを定期的に開催し、DEIへの理解を深め、学内の多様性と包摂性の推進を目指しています。

■毎週水曜日 12:15～16:00
国際交流棟1F交流スペース(川内北キャンパス)

DEI Loungeの詳細はこちらから▶

TUMUG支援事業・公募〈本部締切〉・イベント情報

11月 November

26(木) 第10回東北大学優秀女性研究者賞 むらさきせんだいはぎしょう「紫千代萩賞」 詳細はこちら

月末(予定) 仙台Iゾンタクラブ 東北大学大学院 女子学生国際学会発表支援事業 後期

12月 December

01(火) ベビーシッターおよび一時託児利用補助 TUMUGコース 第2回 〈事前申請必須〉

10(木) TUMUG オンライン ランチミーティング 第45回

TUMUG支援事業の詳細はこちら

※2027年1月以降のスケジュールは、当センターのWebサイトをご覧ください。

各記事の詳細および当センターの活動予定は、WEBやSNSをご覧ください。

東北大学 ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン(DEI)推進センター

TEL 022-217-6092

所在地　〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
E-mail　dei-center@grp.tohoku.ac.jp
W E B　https://dei.tohoku.ac.jp

WEB　facebook　X(旧Twitter)

